

木オだよソ

社会福祉法人 東香会

しぜんの国保育園 small village

May 2023



法人理念

いきいき

- 子どもの成長・発達・生活に寄与する人はすべて保育者
- 持続的な暮らしを目指し、物質と事象と生命との関係性を深める
- 地域で安心して子育てができるように

5月主題 心の窓を開けて ほら、風のおい

新しい学期、学年、子どもも大人も「初めまして」や「今年度もよろしくね」の日々をくぐり抜けているところです。新しい関係性の中で、全ての子どもたちと出会い直す日々。私自身も、子どもたちとの関係性をじっくり、ゆっくり育てているところです。

ゆらゆらする気持ちの中、心の窓を開きながら深呼吸。忙しい日々だからこそ、自分の気持ちを開いたり閉じたり（開きすぎでも疲れちゃう）心の換気が必要です。

先日、卒園児の保護者のお母さんたちと話をする機会があり、美和さんのストレス発散は何ですか？と言われて、何かな～と考えていました。

本を読んだり、ドラマや映画を観たり。最近、家族に薦められて、長瀬智也さんが主演の『俺の家の話』を一気に観ました。渋谷のしぜんの国こども園のマネージャーの織絵さんもこのドラマが好きだそうです。（シナリオブックまで持っているそう）家族の悲喜こもごもが、陽気で軽快に描かれています。そして時折涙もあって本当にグッと来ました。まだまだ読みたい本、映画もドラマもたくさんある。世界はおもしろい表現に溢れていますね！幸せです！

園長 齋藤美和

じむしょ 小窓 だより

今年度も4月から毎日つぼみ組に入り、担任と共に子どもたちの姿を見つめ続けてきて1ヶ月が経ちました。4月始めに離乳食をあげていた時のこと。いちようチームのIくんに「おいしいね」「モグモグ」と言葉を掛けながらあげていると、ふと感じたどこか懐かしくて幸せな感覚。なんだろう...この気持ち...と不思議に思いながらも再び「モグモグね」と声を掛けていると、じっと見つめながら嬉しそうな表情で口元を動かしていました。その姿を見た時、わたしの中で「ああ！これか！」と答えが見つかりました。それは今まで当たり前に出来ていたことが失われていたという現実を痛感するものでもありましたが、同時に昨年度まではマスクをつけながらスタートしていた離乳食が今年度は以前と同じように目を見て、こちらの言葉に気づき、仕草で心を通い合わせながら進めることができているという喜びを感じる時間でもありました。それは離乳食だけではなく、2歳や幼児組でも今、大人も共に食事を摂ることが出来るようになり、「美味しいね」と言葉を交わし合い「一緒に食べるのが本当に嬉しいね」と話しています。

また先日、幼児組どんぐりチームが今年度初のチームでのクッキングを行っていました。その様子を、地域のNさんとよもぎ団子の仕上げをしながら見ていたのですが、クッキーの型抜きをするたびに「せーの！って言ってね！」と友だち同士で声を掛け合いながらとても楽しそうに作っている姿を見て、「ああ。いいなあ。この時間大切だなあ。」と思いました。その後、事務所にもおすそ分けに来てくれたみんなの表情が本当にいきいきとしていて、その過程を見ていたからこそ、また更に幸せな気持ちが増した瞬間でした。

暮らしの中での一つひとつの出来事が、また以前のように出来るようになってきた今年度。その喜びを噛み締めると共に一つひとつの意味を感じながら過ごす1年になりそうです。

マネージャー 鈴木絵美



村の春夏秋冬 ～季節のたより・5月～

桜の季節が終わり新緑が芽吹き風が心地よい季節になると、しぜんの国のホールにも大きな鯉のぼりが泳ぎ始めます。一体どれくらい大きいのだろうと思ってメジャーで測ってみたところ8m20cmもありました。子どもたちはホールにクレヨンを持って集まり鯉のぼりの姿を描いて楽しんでいました。

～どうして鯉のぼりをあげるの？～

もともとのぼり旗や吹き流しは戦のときの目印で、武家には男の子が生まれると家紋のついたのぼりを上げて祝う風習がありました。江戸の庶民の間でもそれを真似て立身出世のシンボルだった鯉をのぼりにするアイデアが生まれ、鯉のぼりになりました。

「端午の節句」は古代中国の菖蒲を使った邪気払い行事が起源です。菖蒲が「尚武」や「勝負」に通じることから男児の成長を願う行事に変化し、鯉のぼりや鎧兜を飾るようになりました。

その後、昭和23年に男女の別なく子どもの幸せを願う「こどもの日」になりました。家族みんなで子どもたちの健やかな成長を祝う行事です。



保育者 リレー エッセイ

今月の担当はかえで組担任、あめチーム担当の大津あゆみさんです。

【登山部だったとお聞きしたあゆみさん。登山のどんなことに惹かれているのか、自然を通して子どもたちとしてみたいことなどあったらぜひ教えてください】

初めてのリレーエッセイ、少しドキドキします... ひかりさん、バトンをありがとうございます！

登山に惹かれているポイントは、まずはやはり景色の美しさです。初めて標高3000m以上の山に登った時に見た、雲の上の世界は今でもはっきりと覚えています。

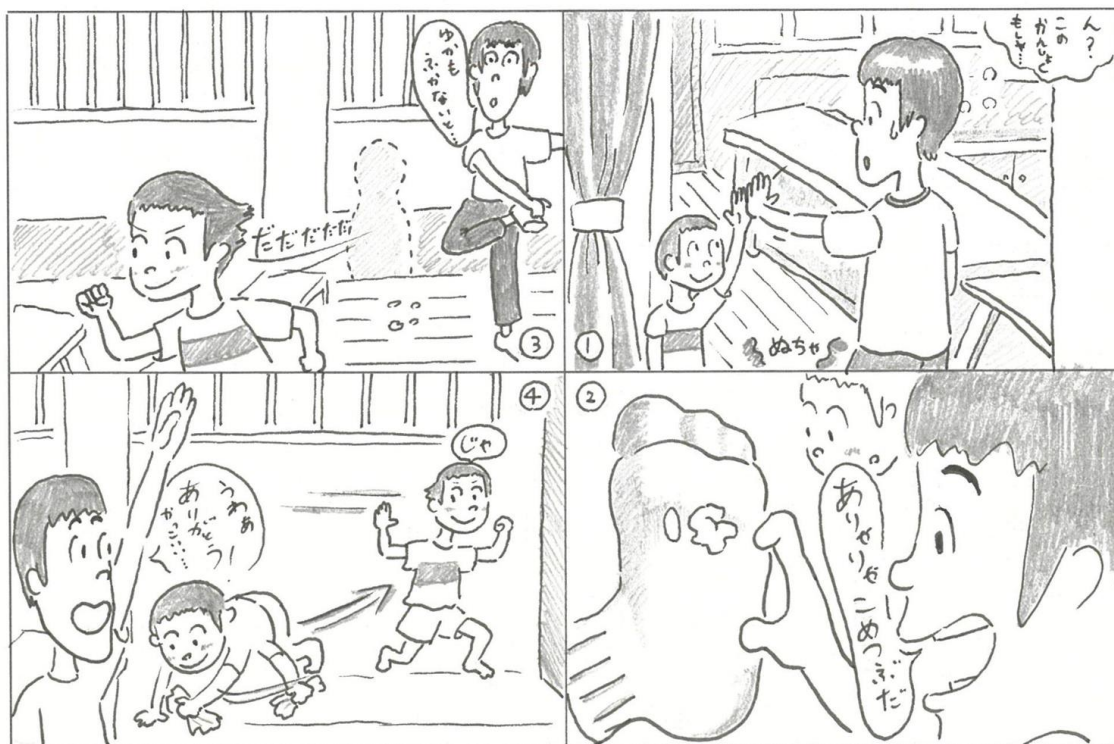
空の青色と、山の緑色と、雲の白色の美しいコントラスト。いつもは下から見上げている景色が自分よりも下に広がる光景に圧倒され、日常のことを忘れて素直な心で"この景色をずっと覚えていたい"とその瞬間に向き合う自分がありました。山頂からの果てしなく広がる景色には、それくらい人の心を動かすエネルギーがあると感じています。そして登山のもう1つの魅力は、日々の暮らしのありがたみを感じられることです。泊まりがけで登山に行くと、電気も水道も家も無い状態で過ごすことになります。太陽が沈めば真っ暗で何も見えなくなり、食料も自分たちで持って上がらなければなりません。雨でテントが浸水し、荷物が全てビショビショになったこともありました。いつも当たり前のように使っているものが無い状態だからこそ、日常に戻った時に"なんて幸せなんだろう"と感ずることができるのです。子どもたちとも1日自然の中で過ごす体験をして、"いつもの暮らし"が当たり前ではなく、たくさんの人や物に支えられていることを感じ合ってみたいです。

次回は、いつもおいしい給食を作ってくださいの立花さん。食のこだわりや作る時に意識していることなどあれば、教えていただきたいです。

かみじまのんびり 漫画劇場

「やさしさにふれたとき」

文・絵 かみじまたるひ



INFO

たるおじさんの紙しばい新作「どうぶつさん」 YouTubeにて公開！

<https://www.youtube.com/watch?v=EUfgsOWI6Y4>